

2023年卒  
Vol.10

## 10月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2023 学生モニター調査結果 (2022年10月発行)

2023年卒の就職戦線は、正式内定解禁日である10月1日を迎えた。キャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は3年ぶりに9割を超える、極めて高い水準を示した(91.1%)。

また、今回は内定後のフォローについての意見や、中小企業への応募状況、就職活動費用など多岐にわたる調査結果を紹介したい。(2023年卒・定期調査 最終回)

### 1. 10月1日現在の内定状況

- 内定率は91.1%。前回調査(7月調査、84.9%)から3カ月間の伸びは6.2ポイント
- 前年同期実績(88.4%)を2.7ポイント上回り、3年ぶりに9割を超えた
- 就職先決定者は全体の87.0%で、前年同期(84.4%)よりやや増加

### 2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

- 「就職先が決まるまで就職活動を続ける」51.2%。理系は約半数が「大学院に進学」

### 3. 中小企業への選考応募状況

- 中小企業の面接試験を受けた学生は全体の57.7%。平均社数は3.1社
- 中小企業を受けた理由は「やりたい仕事に就ける」34.7%、「会社の雰囲気がい」34.4%
- 中小企業を受けていない理由は「給与・待遇が良くない」「安定性に欠ける」などが上位

### 4. 内定式・内定後のフォロー

- 内定式があった学生は73.5%で、前年より6.2ポイント増加。対面形式が過半数に
- 企業に望むフォローの頻度は「1カ月に1回程度」が最多。文理で差は見られず
- 内定期間中の研修や課題には過半数が賛成の意向。「eラーニング」が人気

### 5. 就職活動の費用

- 平均70,007円で、前年より9千円近く増加。3年ぶりに増加も、コロナ禍前の半額程度
- 総額が最も高いのは「北海道」(87,008円)、最も低いのは「中部」(62,811円)

### 6. 就職活動で大変だったこと

- 1位「エントリーシート」、2位「自己分析」、3位「就職情報の収集」の順

※「内定」には、内々定を含む

## 調査概要

- 調査対象 : 2023年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)  
回答者数 : 1,163人(文系男子358人、文系女子348人、理系男子313人、理系女子144人)  
調査方法 : インターネット調査法  
調査期間 : 2022年10月3日~10日  
サンプリング : キャリタス就活2023学生モニター

## 1. 10月1日現在の内定状況

10月1日現在の学生モニターの内定率は91.1%。前回調査(7月1日時点)の84.9%から6.2ポイント伸び、前年実績(88.4%)を上回った。10月の内定率が9割を超えるのは3年ぶりのことだ。コロナ禍前は4カ年にわたり9割を超えていたが、ここ2年は8割台後半で推移していた。直近で最も高かった2018年卒(92.7%)には届かなかったものの、極めて高い水準をマークし、企業の採用意欲の高さを印象づける結果となった。

内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了したのは95.6%。7月調査(82.7%)から約13ポイント上昇した。夏場を経て、内定取得学生の大半が活動を終えたようだ。

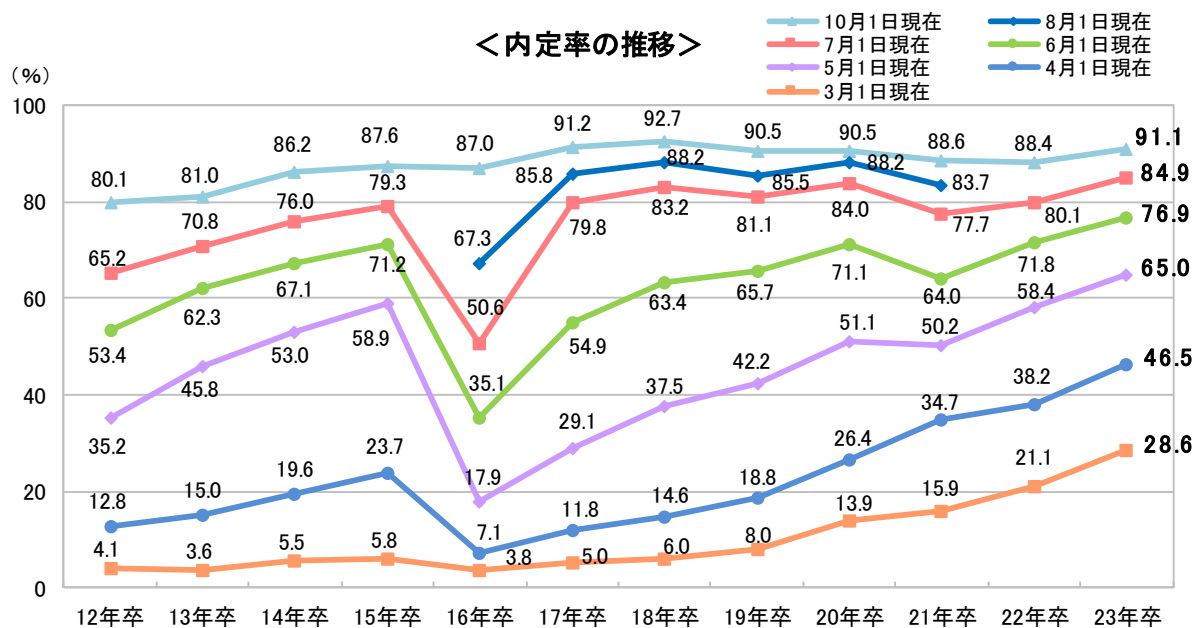
内定取得学生の平均内定数は2.5社。前年(2.3社)よりさらに重複内定が増加した。

### <10月1日現在の内定状況> \*「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		91.1 (88.4)	90.2 (87.0)	92.5 (93.0)	89.8 (86.0)	92.4 (85.5)
内定なし		8.9 (11.6)	9.8 (13.0)	7.5 (7.0)	10.2 (14.0)	7.6 (14.5)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	95.6 (95.5)	94.1 (93.0)	96.3 (95.8)	96.1 (97.0)	96.2 (98.2)
	活動は終了したが複数内定保持	0.7 (1.0)	1.2 (1.7)	0.6 (1.3)	0.4 (0.4)	0.0 (0.0)
	進学などの理由で就職活動を中止	1.6 (0.5)	1.2 (0.3)	0.9 (0.3)	2.5 (0.8)	2.3 (0.9)
	就職活動継続	2.2 (2.9)	3.4 (5.0)	2.2 (2.6)	1.1 (1.9)	1.5 (0.9)

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.5 (2.3)	2.6 (2.5)	2.6 (2.5)	2.4 (2.1)	2.5 (1.9)

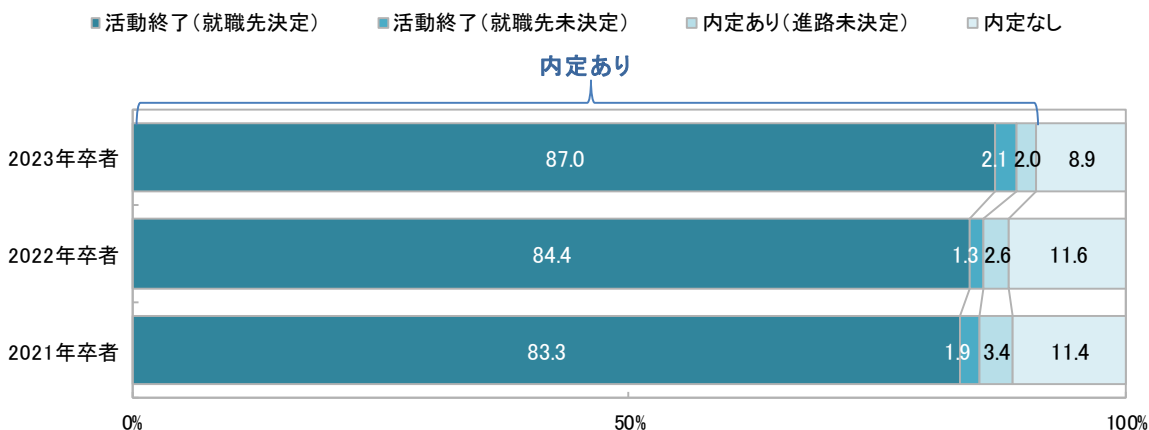
※( )内は前年(10月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~23年卒は6月 ※15年卒以前と22年卒以降は8月のデータなし

回答者全体を分母にして活動状況を見てみると、調査時点で就職先を決定して活動を終了した者の割合は 87.0%。内定率が上昇した分、就職先決定者の割合も前年同期 (84.4%) より増えた (2.6 ポイント増)。複数内定を保留しているなど就職先未決定である者 (2.1%) を合わせると、活動終了者は 89.1%となる。

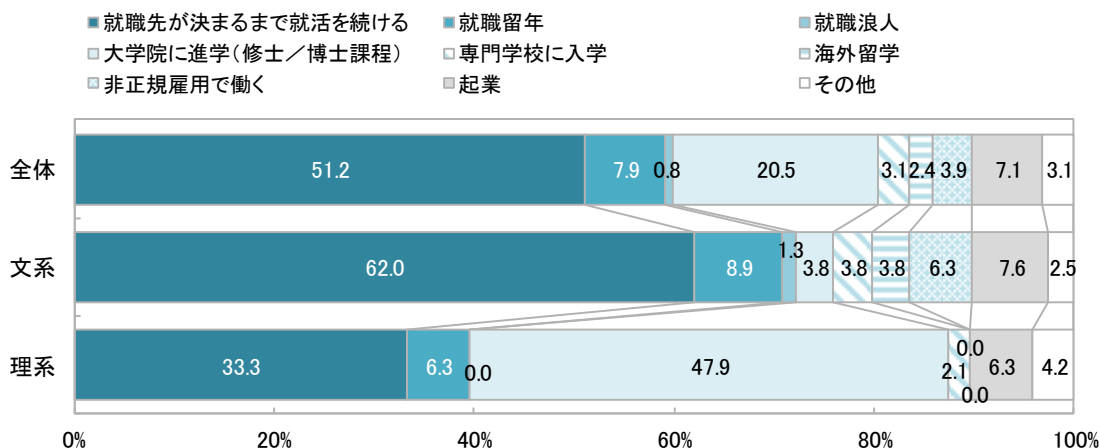
<活動状況の分布>



2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

10月1日時点で就職先が決まっていない学生に、今後の予定を尋ねた。「就職先が決まるまで就職活動が続ける」という回答が半数を超えるが (51.2%)、就職以外の進路を考えている者も少なくない。「大学院に進学」が全体の2割を超え (20.5%)、より専門的な学問を修得してから就職したいと考える層も一定数みられる。とりわけ理系学生において顕著で、半数近くが選択している (47.9%)。一方、文系では「就職先が決まるまで就職活動が続ける」が圧倒的に多く、6割を超える (62.0%)。

<就職先が決まっていない学生の今後の予定>



■就職先が決まっていない学生の声

- 納得のいく1社から内定をいただくまで続けたいと思う。 <文系女子>
- 就職留年できるほどの経済力がないので、卒業までに就職先を決めたい。 <文系男子>
- 大学院に進学して自分の専門分野への見聞を深めたい。 <理系男子>
- 就きたい業務があるので、今選考を受けている企業に就職できなければ卒業してもう一度選考を受けるつもりです。来年の10月採用で就業したいので、大学は卒業して就活します。 <文系女子>

### 3. 中小企業への選考応募状況

全員を対象に、従業員 300 人未満の中小企業への応募経験について尋ねたところ、「中小企業にエントリーした」が 61.6%、「中小企業の面接試験を受けた」が 57.7%で、ともに前年と同水準。

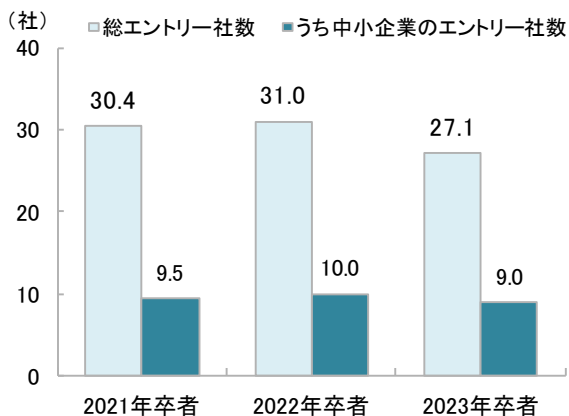
総エントリー社数の平均 27.1 社のうち、中小企業へのエントリー社数は 9.0 社。総エントリー数の減少に伴い、前年より 1 社減少した。面接試験受験社数の平均は、前年と変わらず 3.1 社。

中小企業を受けた理由を見ると、最も多いのは「やりたい仕事に就ける」(34.7%)。仕事内容が希望と合致すれば、企業規模を問わないという学生も多いことがわかる。僅差で「会社の雰囲気がよい」(34.4%)が続き、説明会や選考での対応を通じて社風よさを感じたようだ。一方「内定を取りやすそう」「選考の練習台として」など、本命企業の滑り止めや面接の練習として受ける学生も少なくない。

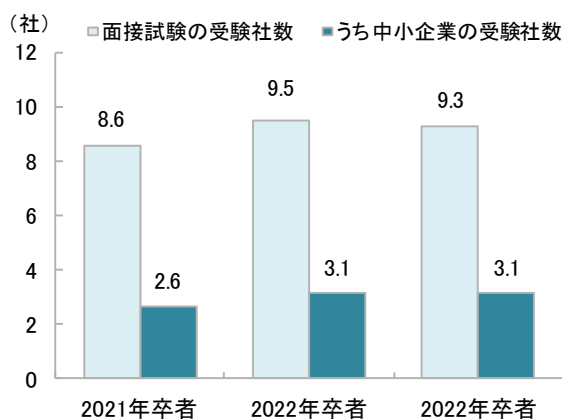
	(%)		
	2021年卒者	2022年卒者	2023年卒者
中小企業にエントリーした	62.3	63.2	61.6

	(%)		
	2021年卒者	2022年卒者	2023年卒者
中小企業の面接試験を受けた	57.0	57.4	57.7

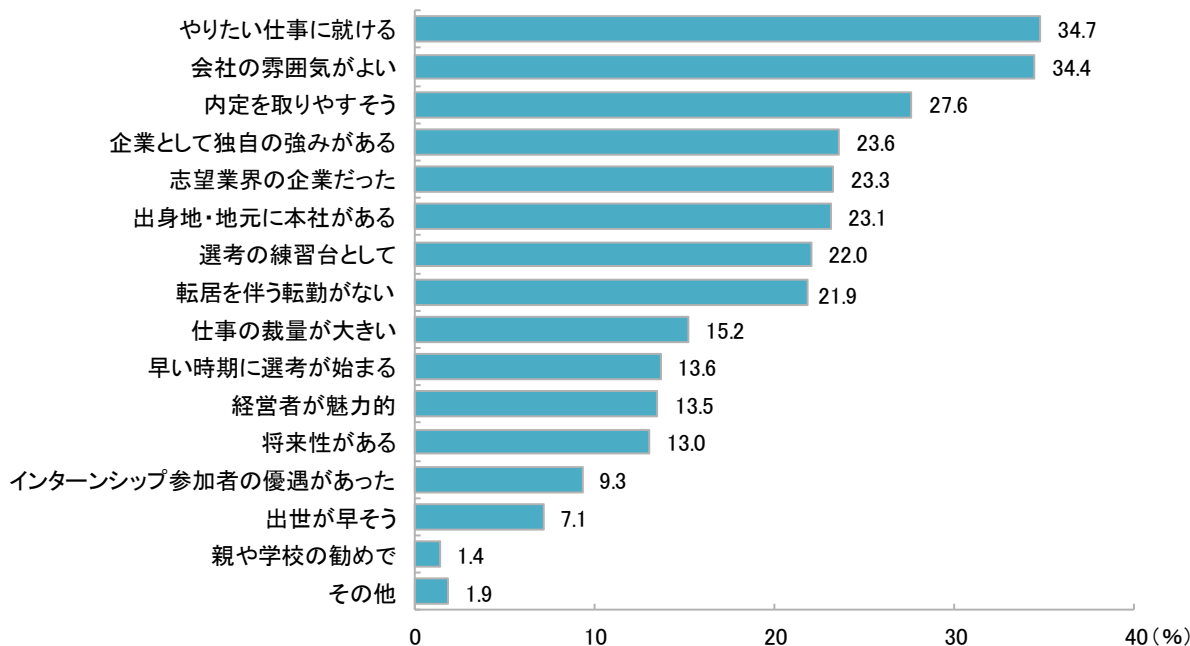
＜エントリー社数＞



＜面接試験受験社数＞



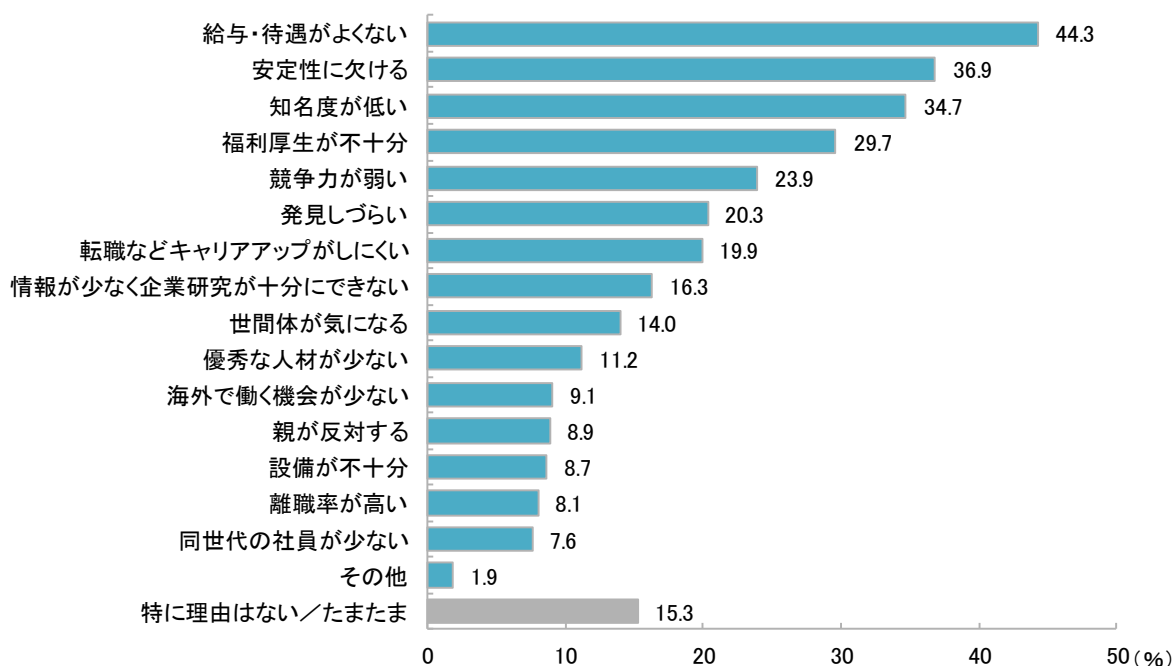
＜中小企業を受けた理由＞



中小企業を受けていない学生 (モニター全体の42.3%) にも、その理由を尋ねた。最も多いのは「給与・待遇がよくない」で4割強が選んだ(44.3%)。「安定性に欠ける」(36.9%)、「福利厚生が不十分」(29.7%)などが上位に挙がり、条件面での懸念が中心であることがわかる。また、「知名度が低い」(34.7%)、「発見しづらい」(20.3%)なども一定数が選び、中小企業の企業研究をすることなく敬遠している学生も少なくないと見られる。

中小企業を受けた学生のコメントを見ても、選考時の対応は大手より高く評価するものの、それ以前に「知るきっかけがない」「情報が少ない」という声も多い。優秀な学生の応募を増やすためには、自社の強みや魅力をしっかり発信することが肝要と言えるだろう。

### ＜中小企業を受けていない理由＞



#### ■ 中小企業を受けていない理由

- 大企業に比べ収入や福利厚生が弱く、業績などの安定性も低いと考えられる。 <理系男子>
- 今後転職が必要になった時に、キャリアアップの幅や可能性が大企業に比べて劣ると感じた。 <文系男子>
- 就活支援サイトや掲示板などに情報が少ないため、企業研究やきっかけがなかった。 <理系男子>
- 携わることができる業務の幅が小さく、キャリア的にあまり魅力を感じなかった。 <文系女子>
- 女性の育休産休などの支援が大手に比べると少ない印象があるため。 <理系女子>

#### ■ 中小企業を受けた印象

- 大手企業よりも、就活生一人一人をしっかりと見てくれていると感じました。 <文系男子>
- 中小企業だからこそ、一人一人の仕事の責任感があり、やりがいを感じられると思った。 <理系女子>
- 研究だけでなく、製造、営業など多岐にわたる仕事を任せてもらえる点を魅力に感じた。 <理系男子>
- 選考に進めばある程度の情報は得られるが、応募の段階ではインターネット等を使っても情報量がかなり少なく、興味を持って応募しづらいことが多かった。 <文系男子>
- 大手と比べ、どんな職につくのがイメージしやすい。 <文系女子>
- 様々な業務に携われる印象を受けた。福利厚生や給与などが大企業に比べて乏しい印象を受けたので、この点は改善すべきだと思った。 <文系男子>
- 良い会社なのに、合同説明会などに出ていない分、接する機会が少なくもったいないと感じた。 <理系男子>
- すべて対面での選考だったので、雰囲気はわかるのはいいが、少し面倒だった。 <文系女子>

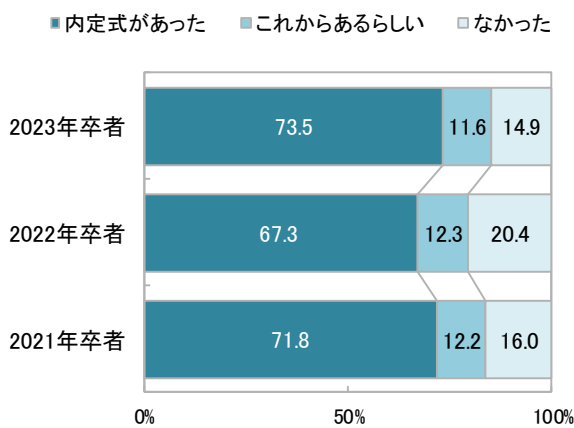
#### 4. 内定式・内定後のフォロー

就職先を決定して就職活動を終了した学生に、内定後のフォローや研修について尋ねた。

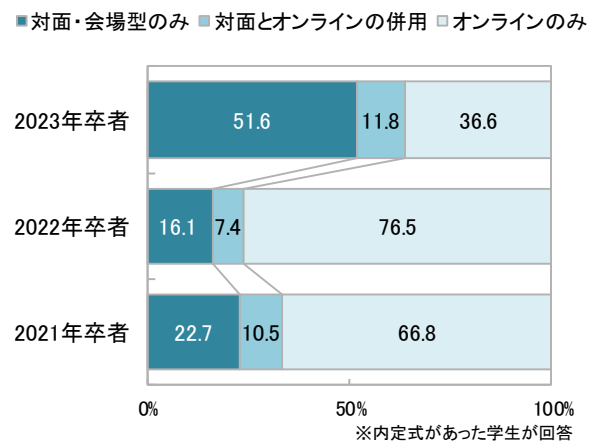
まず、10月1日前後の内定式については、「内定式があった」という学生が73.5%で、前年より6.2ポイント増加した。内定式の形式は「対面・会場型のみ」が51.6%に対し、「オンラインのみ」は36.6%。コロナ禍により過去2年はオンラインが主流だったが、今年是对面での実施に戻した企業が多かったことが表れている。

内定式に参加した学生に、感想を尋ねた。「大変よかった」「よかった」を合わせると8割を超え、参加者の大半が満足したようだ(計81.0%)。コメントからは、式典を通じて入社への期待を高めたり、社員や同期となる内定者との親交を深めたりした様子が見える。

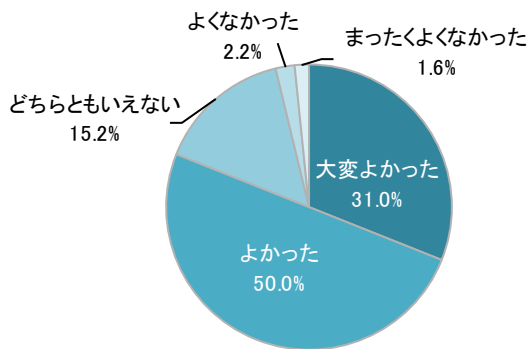
＜内定式の有無＞



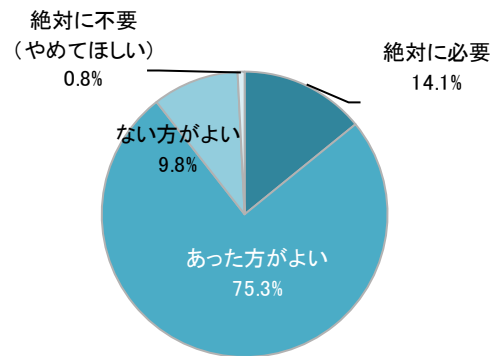
＜内定式の形式＞



＜内定式の感想＞



＜内定式の必要性＞



#### ■内定式の感想

○来年から共に働く同期と実際に会うことで強い意欲とやる気が生まれ、社会人になることへの期待が高まった。

<文系男子>

○役員や先輩社員の方々からお祝いと激励メッセージをいただき、社会人になる実感が湧いた。

<文系女子>

○会社の研究施設を見られたのと、志望部署の人と話せたのがよかった。雰囲気があった。

<理系女子>

○泊まり込みの内定式で懇親会などもあったため、同期との仲を深めることができた。

<文系男子>

○4月からここで働くんだという実感が湧いた。オンラインだったこともあり、あまり緊張せずに臨めたのが良かった。

<文系女子>

○時間が長いわりに、内容はオンラインで十分なものであった。

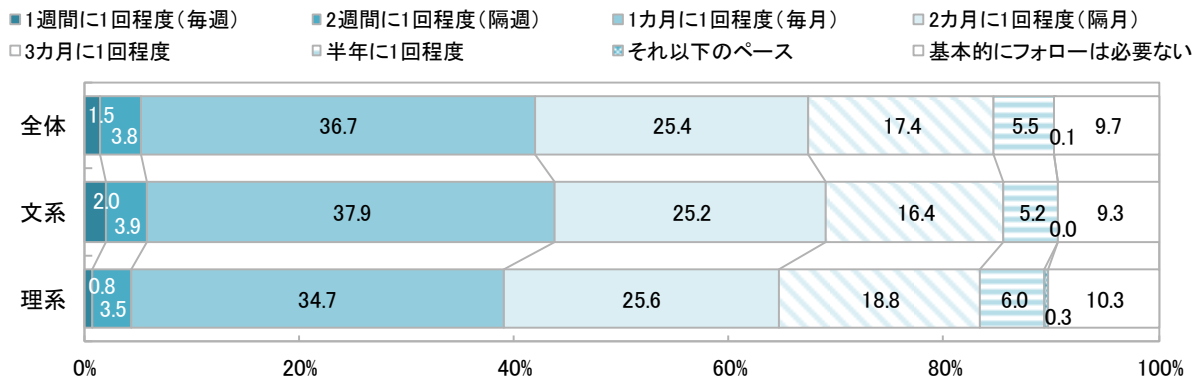
<理系女子>

○オンラインであったため、対面で行いたかった。

<理系男子>

内定後のフォローについても見てみよう。企業にどのくらいのペースでフォローしてもらいたいと思っているのかを尋ねたところ、最も多かったのは「1カ月に1回程度(毎月)」で36.7%。次いで「2カ月に1回程度(隔月)」(25.4%)が続く。文理での大きな差は見られず、卒業研究などで多忙と言われる理系学生も、一定のフォローを期待している様子が見える。

### ＜企業に希望する内定後フォローのペース＞

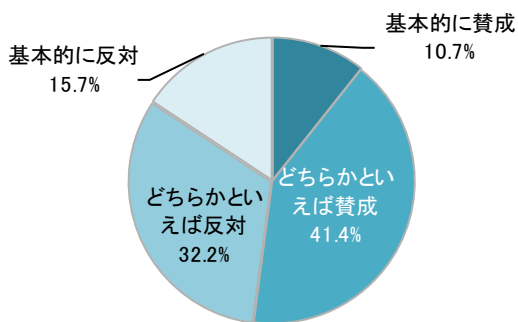


内定期間中に研修や課題が出ることについては、「基本的に賛成」(10.7%)と「どちらかといえば賛成」(41.4%)を合わせて約半数が賛成の意向を示した(計52.1%)。例年に比べ反対が多く、コロナ禍が落ち着いた今、残りの学生生活の充実を優先させたい学生も多いと見られる。

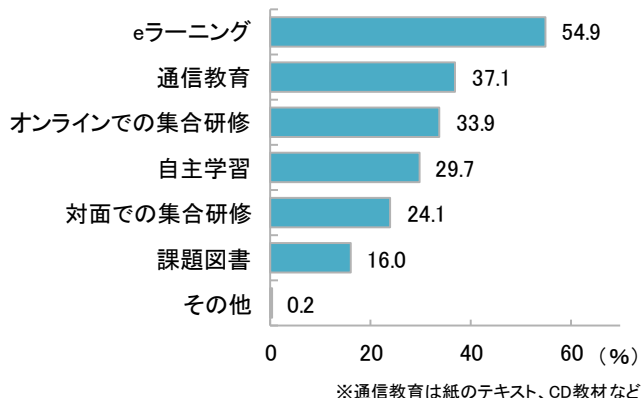
なお、研修や課題の望ましい形式を尋ねたところ、「eラーニング」が圧倒的に多く、5割強(54.9%)。「通信教育」「オンラインでの集合研修」「自主学習」が続く、自宅等で自分の都合に合わせて、比較的手軽に受けられる課題や研修を希望する学生が多いことが読み取れる。

いずれにしても、学生の負担にならないよう、それぞれの状況を踏まえた対応が求められる。

### ＜内定中に研修や課題が出ることへの考え＞



### ＜内定者研修や課題で望ましい形式＞

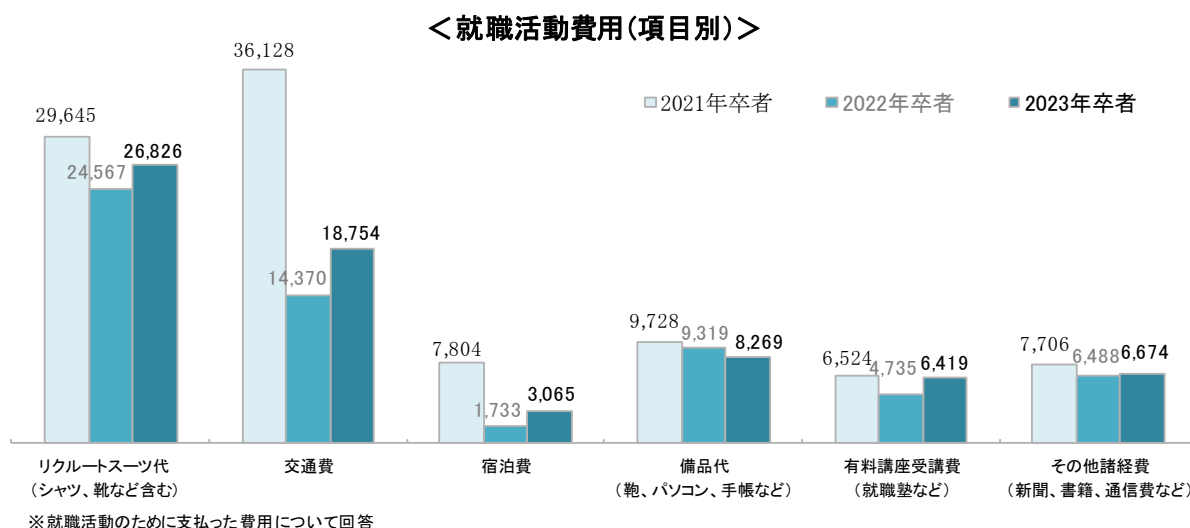
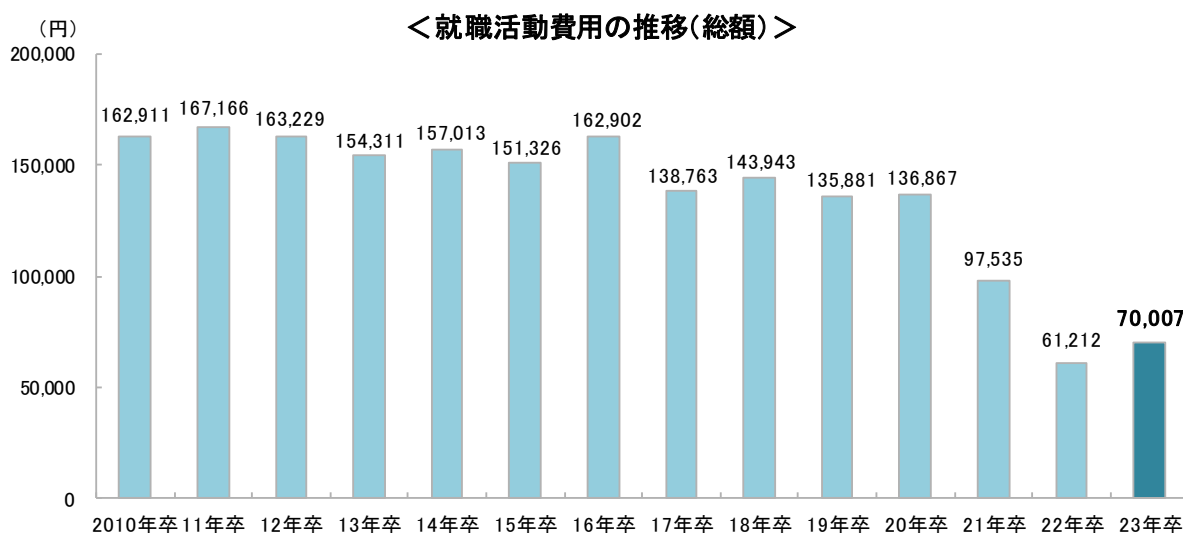


### ■就職決定企業について、入社するまでにもっと知りたい情報

- 勤務地がどこになるか、また1年目の仕事内容や動きについて詳細な説明がほしい。 <理系男子>
- 新人研修や新卒1年目のざっくりとした予定など。 <文系男子>
- 福利厚生の詳細内容、配属決定時期など、就活生としては聞きづらかったものを深く知りたいです。 <文系男子>
- 初期配属ごとに、どのような社内キャリアを歩むことが多いか。 <文系女子>
- 研究所がある地域の雰囲気(住みやすさ、治安、交通手段など)。 <理系女子>

## 5. 就職活動の費用

就職活動でかかった費用について、「リクルートスーツ代」「交通費」「宿泊費」「備品代」「有料講座受講費」「その他諸経費」の項目ごとに金額を尋ねた。各項目の平均額を足し上げると70,007円となり、前年調査(61,212円)より9千円近く(8,795円)増加した。就活費用は、コロナ禍によるオンライン化の影響で昨年まで2年連続で大幅に減少。最小額を更新していたが、3年ぶりに増加に転じた。今年は面接を対面で行う動きもあり、その分費用も上昇したと見られる。ただ、コロナ禍前に比べれば、就活にかかる費用は半額程度に収まっている。



### ＜就職活動費用(大学地域別)＞

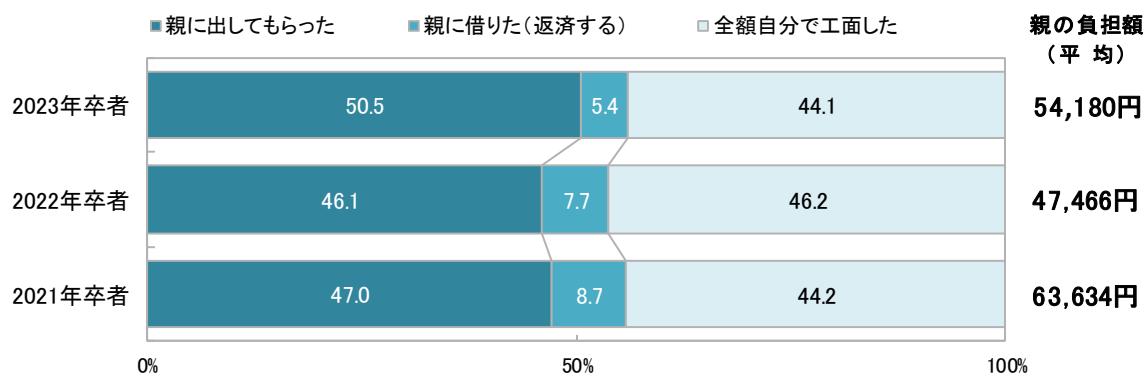
	(円)						
	北海道	東北	関東	中部	関西	中国・四国	九州・沖縄
合計	87,008	80,145	65,877	62,811	73,065	69,729	83,942
リクルートスーツ代	26,661	22,346	29,681	26,604	24,903	21,637	22,171
交通費	17,995	18,215	12,614	19,650	24,094	27,500	34,953
宿泊費	7,571	3,772	1,499	2,068	4,126	5,294	6,615
備品代	8,875	6,344	8,923	5,450	10,576	4,522	6,934
有料講座受講費	11,879	19,935	6,603	3,839	3,988	4,853	5,479
その他諸経費	14,028	9,533	6,557	5,200	5,378	5,924	7,789



地域別に見ると(表は8ページに掲載)、合計額が最も高いのが「北海道」で、87,008円と9万円に近い。続く「九州・沖縄」も8万円台(83,942円)。全体の金額が最も低いのは「中部」(62,811円)で、「北海道」との差は2万4千円あまり。コロナ禍前に就職活動をした2020年卒者では、最も多い地域と少ない地域で10万円以上の差があったが、交通費・宿泊費の占める割合が下がったことで、地域差は緩和されている。

今回、総額がやや増加したのに伴い、就活費用をアルバイトなどで「全額自分で工面した」という学生の割合はやや減少(46.2%→44.1%)。代わりに、「親に出してもらった」が増加し、過半数に上った(50.5%)。親の負担額は平均54,180円で、前年より6千円あまり増加した。

### <就職活動費用の出どころ>



### ■就職活動の費用について

○リクルートスーツが必要だったが、春から夏にかけて暑い時期に毎日同じものを着るわけにはいかず、お金がかかったように感じる。中にはビジネスカジュアルなど、余計にお金がかかるものもあり、服をどうするかが大変だった。  
<関東・文系男子/総額 270,000円>

○スーツや備品は今後も使うので特に負担には感じなかった。交通費はあまりかけたくないと考えていた。  
<東北・文系男子/総額 58,000円>

○オンラインが主で、対面の場合は企業に交通費を支給していただいていたので、特にお金はかからなかった。資料も自分で買うことはなく、先輩や友人のものを使用していた。  
<九州沖縄・理系女子/総額 1,000円>

○実際にかかった交通費は10万を超えていると思うが、ほとんど企業が負担してくれた。  
<中部・理系男子/総額 30,000円>

○地方なので関東・関西で対面面接がある時の交通費が嵩んだ。宿泊は友人宅に泊めてもらった。パソコンは家にデスクトップしかなく背景の都合上使えなかったため新しく買った。スーツは入学式のを流用している。  
<九州沖縄・文系女子/総額 250,000円>

○オンライン開催のおかげで少なく済んだ。  
<関西・理系女子/総額 40,000円>

○スーツやパソコンなどは就活後も使い続けられるが、筆記試験対策の本を購入するとかなりいい値段するので、正直出費が痛かった。  
<北海道・文系女子/総額 78,000円>

○モバイルWi-Fiの負担が大きかった。  
<関西・文系男子/総額 90,500円>

○公務員講座を受講したため30万程かかった。  
<関東・文系女子/総額 368,000円>

○就活のためにアルバイトを控えていたため、親の援助がなければ賄えませんでした。  
<関西・文系女子/総額 308,000円>

○スーツなど高価なモノは親が出してくれた。とても感謝している。こういった場面でも、親が費用を出してくれるかどうかで格差が生まれてしまうのではないかと感じる。  
<関東・文系男子/総額 156,000円>

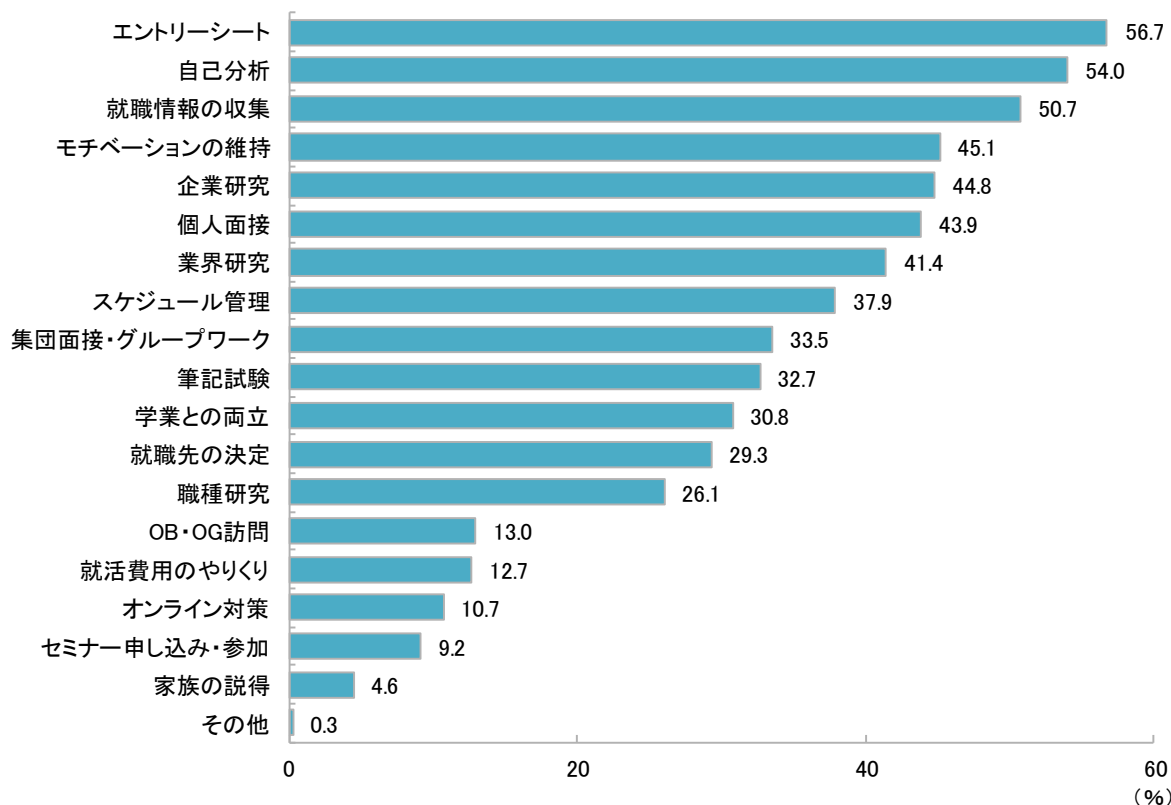
## 6. 就職活動で大変だったこと

就職活動で大変だったこととして、自身にあてはまるものを選択肢からすべて選んでもらった。

最も多いのは「エントリーシート」で過半数が選んだ (56.7%)。エントリーシートは選考の入口であるため、かなり時間をかけて取り組んだという声が目立った。他に、「自己分析」(54.0%)、「就職情報の収集」(50.7%) も半数を超える。23卒学生の就活はまだまだコロナ禍の影響が大きく、オンラインの活動も多かったため、自己分析や情報収集に不安を覚えた学生も少なくないようだ。

また、「モチベーションの維持」が4位と高いのが目を引く。夏季インターンシップ等への準備から就職活動を始めた学生にとっては長期戦となり、就活への士気を保つのに苦労したという声も寄せられた。

### <就職活動で大変だったこと>



### ■就職活動で大変だったこと

- 同じ設問であっても、企業ごとに内容を変えてエントリーシートを提出していたため、作成にとっても時間がかかった。 <文系女子>
- 締切内にたくさんのエントリーシートを仕上げなければ、というプレッシャーが辛かった。 <文系男子>
- 就職活動の早期化に伴い、長い期間で気持ちが離れてしまうこともあった。今頑張れば後が楽になると思いながら自分を奮い立たせて頑張った。 <理系男子>
- インターンの時期から内定を得るまで、ずっと頭の片隅に就活があり、ストレスがたまった。 <理系女子>
- オンラインであったため、他の就活生や先輩から自然と情報が入ってくる機会が少なかったように感じる。そのため、SNS や掲示板などで情報収集することが多かった。 <文系女子>
- コロナ禍で人と関わる機会が少ないため、集団面接やワークの練習などあまりできなかった。 <文系男子>
- 特に志望動機には苦労した。なぜその企業、業界を目指したのかの動機を言語化するのが難しかった。社員との面談や業界の将来、その業界でのビジョンを考えることを通して何とか形にすることができた。 <理系男子>
- 学会の発表で忙しい時期と、エントリーシートを出す時期が重なって、スケジュール管理や体力面で辛かった。 <理系女子>